

最近のトピックス

顎関節内障に対する極細径顎関節鏡による診断的鏡視

Diagnosis of the internal derangement of TMJ with use of an ultra-thin arthroscope.

新潟大学歯学部口腔外科学第二講座
高木律男

2nd Department of Oral and Maxillofacial Surgery, School of Dentistry, Niigata University

Ritsuo Takagi

関節鏡が顎関節症の診断、治療に応用されはじめて約25年が経過するが、最近では診断的鏡視か治療的鏡視かの目的により、それぞれに使いやすい形態に変化しつつある。

すなわち、治療面ではシェーバーやレーザーなどの使用器材の開発、関節円板牽引法、剝離授動術などの治療法の開発、さらには関節腔内洗浄下での鏡視操作により除痛効果の得られることから関節腔内洗浄療法への発展など治療方法が一層広がり、それまで保存的に長期の治療期間を要していた症例や関節腔を開放する外科的治療の必要な症例の中の多くが、より低侵襲かつ短期間で好結果が得られる様になった。

一方、診断面では、顎関節鏡視における診断基準の検討、解像度の改善の他、低侵襲で容易に穿刺できるように0.7mm前後の外径で、より高解像度の画像が得られるようになってきた。さらに最近では、HIVなどのVirus感染予防対策として外来でいつでも使用可能なdisposableな関節鏡さえ市販されはじめています。

私達の教室でも、顎関節症に対し当初より積極的に取り組み、関節腔造影法による検討¹⁾、症型分類とそれにあったシステム化された治療法の検討^{2,3)}、特に復位を伴わない関節円板前方転位に対する治療体系^{4,5)}について報告してきた。今回、保存学第一講座の子田助教授および横浜労災病院歯科口腔外科の近藤部長のご厚意により、0.69mm径の関節鏡システム(モリタ製作所製・写真1)を使用する機会を得、治療目的に行う関節腔内洗浄時の18ゲージ針を通して関節腔内を観察し、その所見と術後の経過との関連について検討した⁶⁾。関節腔洗浄療法は、保存療法にて顎関節部の運動痛に改善の認められない症例(多くは顎関節症型分類でIII型 closed lock およびIV型症例)に対し、開口練習に伴う痛みを少しでも減少させるために行う処置で、円板の復位が目的では

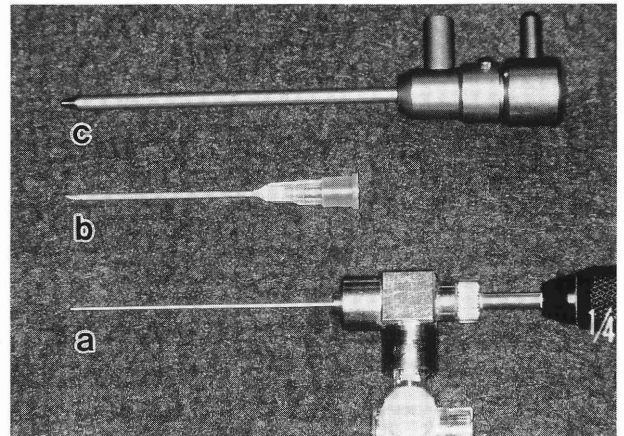


写真1: 極細径顎関節鏡

a: 極細径顎関節鏡 (径0.69mm)

b: 外套管として使用する#18ゲージ針

c: ストライカー社製関節鏡の外套管 (外径2.3mmの関節鏡用)

ない。使用した超細径顎関節鏡は写真1に示した如く、18ゲージ針を外套管として用い、解像度は通常の2.4mm径に比べると悪いものの、浮遊物、線維性変化、関節円板の穿孔などが確認できる(写真2)。その結果、上関節腔後部の鏡視所見では、関節軟骨または関節円板の粗造面(81.3%)、滑膜炎(75.0%)、浮遊物(75.0%)、癒着(50.0%)、出血(43.8%)などの所見が観察された。それぞれの症例での予後との関連では、線維性変化(粗造面、癒着、浮遊物)の認められる症例で、処置後の開口量の増加も時間を要していた。したがって、早い時期に臨床症状の改善を得たい場合には、関節鏡視下剝離授動術や関節腔開放手術の適応となることが明らかになり、その後の治療指針までも判定可能であることが示唆された。

なお、本方法は治療面でも、それまで長期の保存療法を要した症例に対して、疼痛では2週後で64.7%、1か月後で70.6%、3か月後で82.4%と高い割合で改善が認められ、開口量も平均12mm(術後3か月)の増加が認められた。この様に、必ずしも全身麻酔下に2.4mm径の関節鏡を使用しての鏡視診断・剝離授動・手術操作を行わなくとも、洗浄操作+ステロイド局注+manipulationにて良好な予後が得られており、外来において局麻下に可能な診断・治療法としての有用性が認められた。

参考文献

- 1) 高木律男, 大橋 靖, 他: 顎関節腔造影法による顎関節症の臨床的検討—特に臨床所見と関節円板動態の関連性について—. 日口外誌 35(2): 361-366,

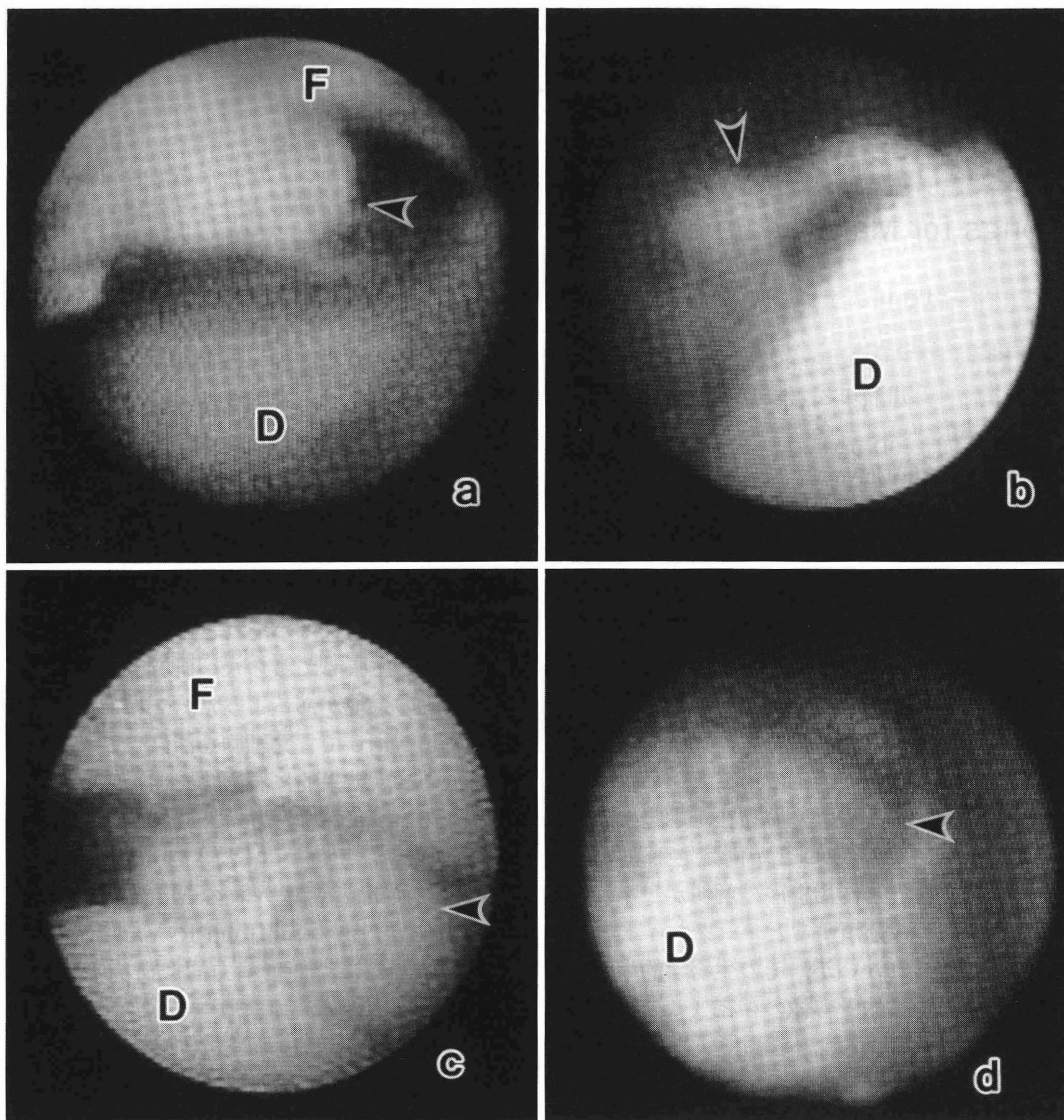


写真2：鏡視所見（上関節腔後方部）

- | | |
|------------|----------|
| a：粗造面 | b：癒着 |
| c：上関節腔内浮遊物 | d：関節円板穿孔 |
| F：下顎窩 | D：関節円板 |

- 1989.
- 2) 成 辰熙, 高木律男, 他：症型分類（顎関節研究会提案）からみた顎関節症患者の臨床的検討. 日口外誌. 35(12)：2958-2963, 1989.
 - 3) 大橋 靖, 高木律男：疼痛症状の疫学的背景—病型との関連について— 歯界展望 82(6)：1311-1319, 1993.
 - 4) 成 辰熙, 高木律男, 他：クローズドロックを呈する顎関節症患者に対する保存治療の評価. 日口科誌, 38(1)：283-291, 1989.
 - 5) 高木律男, 上路敬一, 他：クローズドロック症例（非ロック解除例）における臨床所見の推移について. 日口外誌, 39(12)：1314-1319, 1993.
 - 6) 高木律男, 松下 健, 他：顎関節症に対する関節腔内洗浄療法の検討—極細径関節鏡による上関節腔後部所見と予後の関連について—. 日顎誌 7(2)：40-50, 1995.